

第6回 まちの機能再編にチャレンジ！ ～将来像から考えよう～

はじめに

今回のワークでは、将来のことを具体的に考え、班ごとに将来計画図を描きます。これまでに検討してきたことをもとに、まちのキャッチフレーズや基本方針を実現するため、どこでどのような活動を行うかを考え、機能再編案を検討します。

また、令和3年11月～12月にかけて実施した、「旧若葉小学校・現清掃工場跡地の利活用に関するサウンディング型市場調査」の結果の概要をお知らせしました。

※市ホームページ：<https://www.city.tachikawa.lg.jp/gyoseikeiei/koukyousisetu/wakabasounding.html>

（「旧若葉小学校・現清掃工場跡地の利活用に関するサウンディング型市場調査」で検索していただくと検索結果に表示されます。）

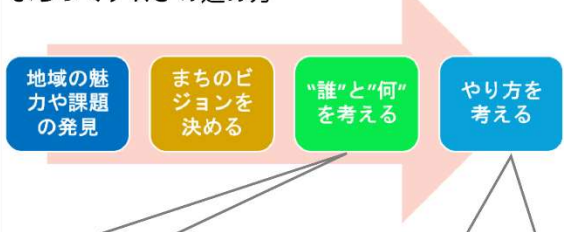
<若葉町の「将来のまちの姿」を考えるために>

東京都立大学 讃岐 亮 先生

これまでのワークで、若葉町の魅力や課題を地図に落とししたり、語り合ったりする中で、まちの将来像（ビジョン）、キャッチフレーズ、方針が浮かんできました。また、身近にある施設の状況を再確認し、評価をしました。今回は「誰」と「何」を考える「やり方を考える」に取り組みます。



まちづくり WS の進め方



「生かせる資産」を見つけ、そこでは誰が関わるか（サービスを提供する人、そこで活躍する人、サービスを受けて笑顔になる人）を想像してみる。

最後に、手法を考える。どのくらいお金がかかるか、お金をどうやって捻出するか、誰が事業を運営するか、行政の支援はどうするかなど。

ステップ1 これまでのワークをふりかえろう

グループワーク

これまでに行ってきたワークは、まちの将来を考えるために、様々な角度から若葉町を見つめ直し、地域の魅力や課題、今ある施設の使われ方などを把握、共有することが目的でした。そして将来像をイメージし、キャッチフレーズ、基本方針、機能再編のためのこだわりポイントなどを考えました。班ごとに、第1回から積み重ねてきたワークの成果を振り返り、いよいよ、ステップ2では具体的な将来計画を考えます。



ステップ2 若葉町の将来計画図を描こう！

第5回で意見を出した、将来の若葉町で行いたいこと、これからも続けていきたいこと、大切にしたいと思うことを、若葉町内のどの場所で行いたいかを考え、その機能や将来の活動メニューを地図に貼りました。

グループワーク

今ある施設も耐用年数を迎えると建て替えを検討しなければなりません。その時どうするか？ 将来世代に負債を残さず、みんなが暮らしやすいまちの姿とは・・・？

活発に議論が交わされ、たくさんの意見や工夫が見られる将来計画図（次回ブラッシュアップしてポスターとして整える予定）ができました。



・・・・・・・・・・各班の若葉町将来計画図・・・・・・・・・・

黄色ふせん・青ふせん：将来の若葉町でやりたいこと（活動メニュー）

ピンクふせん：機能



まとめ

東京都立大学 都市環境学部建築学科 助教 讃岐 亮 先生

各班、様々な意見が出ていました。2つの団地の交流について考えた班、今ある施設を大事に使っていきたいという班、旧若葉小学校と清掃工場跡地について考えた班。また、旧若葉小学校の建物を活用したいと、耐用年数までのこれから10年のことを中心に話し合った班もありました。お金を捻出する工夫なども議論されていて、良かったと思います。



～ちょこっと ひとことコーナー～

ワークショップの最後に、参加者同士の情報共有を目的として、1名の希望者の方にひとことお話をいただきました。アール・ブリュット立川実行委員会で、主に障害がある人のアートの展示などの活動をされている方のお話を伺いました。

第6回ワークショップの成果物と資料

【成果物】

- ・若葉町将来計画図

【配布資料】

- ・第6回ワークショップ次第
- ・ニュースレターvol.5
- ・前回の成果(施設の評価シート、活動・機能シート全班分)
- ・まちの機能再編にチャレンジ
- ・若葉町の「将来のまちの姿」を考えるために
- ・旧若葉小学校・現清掃工場跡地の利活用に関する
 サウンディング型市場調査 概要および結果
- ・若葉町まちづくりワークショップ 第1回～第5回のふりかえり
- ・アンケート

テーマ：将来計画図の見える化！ ～みんなでポスターをつくろう～

■若葉町の将来計画図をポスターにしよう！

讃岐先生からはポスター作成にあたってのポイントについてアドバイスがありました。



- キャッチフレーズ
(ポスターのタイトル)
- 再編・跡地イメージ
- こだわりポイント
- この案で期待できること
- 将来に引き継ぐための工夫
など

- ①発表用ポスターは、皆さんが手作りをしたものをそのまま使います。
- ②イラストの記入やマーカーの使用、特に伝えたい部分は太字にする等、初めて見る方が分かりやすいポスターの作成を心がけてください。
- ③地図や写真などを使いたい場合は、第8回の冒頭に少し準備の時間を取りますので、その際にポスターに貼ってください。

第8回に向け、グループの思いをうまく表現できるよう、皆で楽しくポスターを作りましょう！

また、班の中で合意が得られていない部分がある場合は、合意できている部分・できていない部分を併記してもよいことなどを説明しました。

また、作業効率を考慮して、施設ごとに機能や活動メニューなどを書き込み、レイアウトすることができるよう、「施設再編イメージシート」(右図)を用意し、自由に使えるようにしました。

施設名 _____

機 能 _____

活動メニュー _____

知 果
工 & 夫
60

29

第7回 将来計画図の見える化！ ～みんなでポスターをつくろう～

はじめに

今回は、前回のワークで班ごとに描いた将来計画図の内容を整理し、キャッチフレーズやこだわりポイントなども加えて、他の方に分かりやすく伝えるためのポスターを作成します。これまで6回にわたるワークショップで検討してきた班の案を、模造紙にレイアウトしてみます。班の想いを表現できるよう工夫しながら、楽しくポスターをつくりましょう！

みなさんが手作りのポスターをそのまま使って、次回、ポスターセッションを行います。



若葉町の将来計画図をポスターにしよう！

【ポスターに入れる要素】

- キャッチフレーズ
(ポスターのタイトル)
- 私たちのこだわりポイント
- 再編・跡地活用イメージ
- この案で期待できること
- 将来に引き継ぐための工夫
など

グループワーク

各班、自由な発想でポスターづくりに取り組みました。
模造紙に絵を描いたり、色を塗ったり、
持ち寄ったイメージ写真を貼ったり・・・



・・・・・・・・・・各班の作業風景・・・・・・・・・・





班によっては、こだわりポイントを見直したり、イラストを描き込んだりしながら、分かりやすく伝えるために、さらにみがきをかけました。
2時間ほどのワークで、すべての班のポスターができあがりました。

次回はワークショップ報告会です ～ポスターセッション～

次回はいよいよ、ワークショップ最終回となります。
ワークショップ報告会として、ポスターセッションを行います。

♪みんなで楽しむポスターセッションの流れ♪

- ① 6班分のポスターを掲示してあります。
まずはポスターを見に行きましょう。
- ② ポスターの内容について、その班のメンバーから説明を聞き、
質問したり、意見交換をしてみましょう。
- ③ ポスターの「いいね!」と思ったところにシールを貼ったり、
感想をふせんに書きましょう。

ポスターセッションとは?

これまでの成果をまとめた
ポスターを囲みながら、説明
を聞いたり、質疑応答をする
発表方法です。



まとめ

東京都立大学 都市環境学部建築学科 助教 讃岐 亮 先生



どの班も、そのグループのこれまでの議論が生きたポスターになったと思います。次回までに、ポスターにある文章やキーワードだけでなく、そこに込めた「想い」や「意味」について、班のメンバーとできる限り共有して準備できると、なお良いですね！

このポスターを、できる限り多くの市民に見ていただき、議論を交わしてもらいたいです。ご家族、お友達、お知り合いなど、ぜひお誘いください！

～ちょこっと ひとことコーナー～

ワークショップの最後に、参加者同士の情報共有を目的として、1名の希望者の方にひとことお話をいただきました。立川商工会議所ヴィジョン推進委員会で検討している、旧若葉小学校をリノベーションし、テナントスペースやアトリエスペースなどとして活用する構想についてのお話を伺いました。



【事務局より】

参加メンバーで考え、つくり上げたポスターには、若葉町への想い、施設や機能の再編プラン、そして若葉町のまちづくりのアイデアが込められています。
ぜひ、みなさんで意見を交わしましょう！

第7回ワークショップの成果物と資料

【成果物】

- ・ポスター

【配布資料】

- ・第7回ワークショップ次第
- ・ニュースレターvol.6
- ・前回の成果(若葉町将来計画図全班分)
- ・ポスター作成イメージ例
- ・将来計画図の見える化！～みんなでポスターをつくろう～
- ・アンケート

第8回ワークショップ

テーマ：ポスターセッション ～まちのみんなに伝えよう～

ワークショップ最終回は、報告会としてポスターセッションを行いました。ワークショップ参加者以外の一般の観覧者も参加し、質疑応答や意見交換をしました。

■ポスターセッションについての説明

市と讃岐先生から、ポスターセッションの方法と流れについて説明がありました。

- ① 班分け
- ② 前半セッション 40 分
- ③ 後半セッション 40 分
- ④ 班ごとにふりかえり



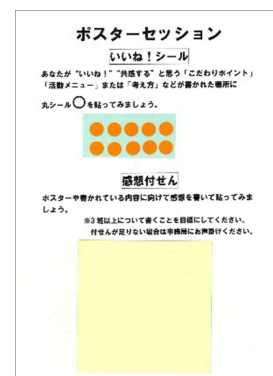
各班、前半に発表するグループと後半に発表するグループの2つに分かれ、前半・後半40分ずつのセッションを行うこととしました。

■ポスターセッションの準備をしよう

班ごとに、第7回ワークショップで作成したポスターを見直しました。最後の仕上げとして手を加えたり、内容の確認などを行いました。

■ポスターセッション

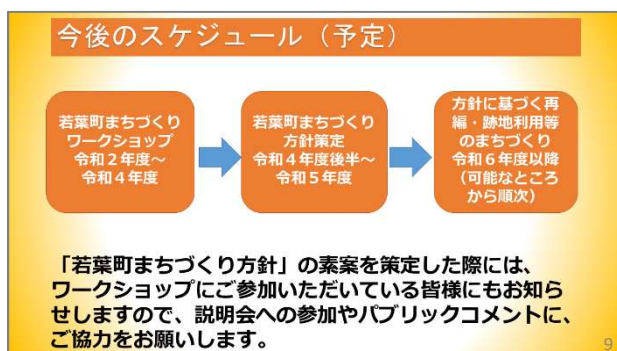
ここから一般観覧者も交え、ポスターセッションを行いました。
見学する側の人は、いいなと思った内容についてふせんに感想を書いたり、「いいね！」シールをポスターに貼ったりしました。質疑応答や意見交換が活発に行われ、盛り上がりしました。



■まとめ

讃岐先生からは、まちづくりに関わったことを忘れないで欲しいという旨の総評がありました。

市からは、今回のワークショップで検討した内容は、これから策定する「若葉町まちづくり方針」に生かしていくことについて説明しました。



■最後に、全員で集合写真の撮影をしました。

第8回 ポスターセッション ～まちのみんなに伝えよう～

はじめ

今回は、ワークショップ最終回です。ワークショップ報告会を行いました。

今まで班ごとに検討してきたキャッチフレーズやまちづくりで欠かせない視点であるこだわりポイント、公共施設の再編プラン、旧若葉小学校・清掃工場跡地の活用アイデアなどをまとめたポスターをつかって、ポスターセッションを行いました。

讃岐先生より、楽しくセッションするためのポイントを教えていただきました。

- ・相手の目を見て笑顔で伝える
- ・ポイントをしばって、短いフレーズで説明する



ポスターセッションの準備をしよう

前回のワークショップで作成したポスターを班のメンバーで見直して、最後の仕上げとして手を加えたり、内容の確認などを行いました。

グループワーク



♪みんなで楽しむポスターセッションの流れ♪

- ① 各班、前半に発表するグループと後半に発表するグループの2班に分かれます。
- ② 前半セッション
説明役の人は、自分たちのポスターの前に立ち、他の人に説明します。見る聞く役の人は、他の班のポスターを自由に見に行きます。ポスターの内容について、その班のメンバーから説明を聞き、質問したり、意見交換をしてみましょう。いいなと思った内容を感想（ふせん）に書いたり、「いいね！」シールを貼ります。
- ③ 後半セッション
自分の班に戻り、発表グループをバトンタッチします。
- ④ セッション終了後に、班ごとに質問や意見を振り返ります。

ポスターセッションとは？

これまでの成果をまとめたポスターを囲みながら、説明を聞いたり、質疑応答をする発表方法です。



ポスターセッション

班のメンバーは説明する側と見学する側に分かれ、前半・後半各 40 分ずつのセッションを行いました。ワークショップ参加者以外の観覧者も参加し、議論が盛り上がりました。



～ポスターセッションでふせんに書いていただいた各班の感想シートより(一部抜粋)～

- 幅広い世代がコミュニケーションを取れるスペースを提供される点に関して共感します。
- 自立、自走し行政だけに頼らない仕組みを作り、地域で経済をまわすことは持続可能な地域社会の為に非常に重要だと思う。
- 旧施設をいかに最大限使用するかという視点がとても良かった。
- 子供たちが学校や塾で勉強ばかりでなく生活に結びつくような学びが得られる場があるといいですね！若葉町が人気の町になってほしいです。
- カフェを介した地域の交流の促進をしていく案が Good！
- 温泉ファームで経済の活性化というのがおもしろい！みんなの意見を出せる町議会、やる気があれば出来るかも！？

まとめ

東京都立大学 都市環境学部建築学科 助教 讀岐 亮 先生

コロナ禍ではありましたが、全8回開催することができ、良かったです。

今回、まちづくりに関わったことや、考えたこだわりポイントのことを忘れないで欲しいです。

また、たくさんの班で「つながり」というキーワードが出てきましたが、これはつながりが希薄になってきているというみなさんの危機感の表れかもしれません。つながりを大切にできるよう、みなさんは日々の暮らしに、立川市は行政に、今回のワークショップをぜひ生かしてください。

立川市総合政策部 大塚 正也 部長

今回のワークショップで検討した内容は、これから策定する「若葉町まちづくり方針」に生かしていきたいと考えています。「若葉町まちづくり方針」の素案を策定した際には、説明会へのご参加やパブリックコメントにご協力をお願いします。

なお、みなさんで作成したポスターは、今後、本庁舎やグリーンセンターでの展示を予定しています。

第8回ワークショップの成果物と資料

【成果物】

- ・ポスター(いいね!シール貼ったもの)
- ・感想シート

【配布資料】

- ・ワークショップ報告会チラシ
- ・ニュースレターvol.7
- ・A～F班のポスター画像
- ・ポスターセッション～まちのみんなに伝えよう～
- ・みんなで楽しむポスターセッションの流れ
- ・いいね!シール&感想ふせん
- ・アンケート

【一般観覧者用配布物】

- ・ワークショップ報告会チラシ
- ・A～F班のポスター画像
- ・いいね!シール&感想ふせん
- ・アンケート



B班

施設名 有馬工場 若葉緑地

機能 集会・交流
子育て・運動

活動メニュー プレイパーク・キャンプ
多世代館・いのちの場
要駐車場

効果と工夫 収益を得る
(施設料・駐車場)
市民バス発行
若葉町民優遇

施設名 第九中学校

機能 福祉施設・図書館
文化交流・集会

活動メニュー 図書館・投票場
ダンス・体操・食事
語らい・働く場所

効果と工夫 若葉会館 児童館
(耐年数越え)の統合

施設名 旧若葉小学校

機能 集会・交流・文化・学習
運動

活動メニュー 芸術家の活動スペース・美術館
マニッシュ・カフェ・レストラン
(道の駅)
防災拠点
サークル活動・学習室

効果と工夫 自主運営
「思い出のたくさんあった校舎をずっと残していきたい」

施設名 若葉公園

機能 運動
集会・交流

活動メニュー お祭り
イカ作り!

効果と工夫 若葉町の
みんなが集える!

施設名 若葉台小学校

機能 集会・交流
学習・文化

活動メニュー サークル活動発表
〇〇考案(習事)
すずかけホール有効活用

全世代が 顔見知り

ハードもソフトも
バリアフリー
なまち

複合施設

こだわりポイント
個性や特技を発揮できる場所を作る

実現するための工夫

お金が発生し自立できる仕組み
今ある施設を可能な限り利用

古い×→とりにかくし 昔ながらの校舎の味を残して!!



岩本・角田
田中・名取
砂賀・住吉
岸野

みどり豊かな文化芸術が薫る

みんなが繋がる街

大人が生き生きしている姿が子どもの夢に
つぼめる

こだわりポイント①

旧若葉小学校 10年間使いたかり!

機能 ・文化・学習・集会・福祉・子育て・運動

アトリエ 芸術祭開催!

ワーキングスペース

体育館/バトマス

郷土食堂

農産物
直売所

ゲテモノ・寺子屋

若葉町のお祭り。おまかせ練習場・防災設備

バドミントン
× GAME 練習

こだわりポイント②

UR・若葉町団地

とのコラボレーション

旧若葉小アトリエ 楽器練習の場

近隣美大音大生への開放

地域活動の参加企画

発表の場

清掃工場

駐車場・タムス
(若葉1グラウンド)
有効利用・収益

若葉台小学校

屋上プール的一般開放
(有料)

こだわりポイント③

グリーンセンター

校となる 若葉会館 東部連絡所 (若葉図書館) を街の中心に置く
将来 周辺の用地を取得し、大きな土地/施設にする
清掃工場跡地を売却し、公共施設全体の敷地面積を削減する

伊藤 榎本 小林
山本 酒井
渡辺 松崎

みんながつながる 住む人が輝くまち

施設名 清掃工場(グリーンセンター)
と、旧若葉小学校
機能 集会(グリーンセンター)
建(旧校舎)を
活用して、多目的な
研修室として使用)
活動メニュー 防災(防災用ベンチや
トイレを公園に)
置き付け交流(旧若葉小
校舎を利用して、子ども
から高齢者まで集まる空間
体育会館はホールとして利用
グラウンドはキャンプ場
として活用)
効果 公園(清掃工場跡地
と体育会館跡地を併せて
市内で注目される新しい
公園)

皆んなでつくる

施設名 若葉会館 若葉図書館
東部連絡所
機能 若葉会館-生涯学習の場
-カス併設-調理室の充実
若葉図書館-読書できるスペース
東部連絡所-其月日前投票-行政サービス
活動メニュー 若葉会館-車イスでの参加可能に
高齢者の生きがいづくり
-文化交流・学ばあう町
若葉図書館-学習の場-講習会開催
-子どもの学習向上
東部連絡所-住民が利用しやすい工夫
効果 若葉会館-利用しやすくなる
サカシ趣味の会等、小単位
での利用できる室を多く…
若葉図書館-若葉小、中との連携を計る
東部連絡所-住民本意の行政サービス

施設名 若葉児童館
学童保育所
機能 子育て
福祉
学習
活動メニュー 子育て広場(交流・相談)
子ども食堂
散歩(マラソン)コース
各世代の居場所(サカシ)
様々な体験(年齢の子供に合わせた)
仲間意識の醸成(居場所)
子育ての悩み軽減
自己肯定感を育む、誇りを持てる

施設名 九中若葉台小
機能 建物の近代化と充実
*広々とした図書館
*放課後の子どもの活動ルーム
*市民レベルも活用できるホール
*音楽ホール 文化講演会等
活動メニュー ①放課後の宿題ルームを設けて
子ども支援を行う。
②市民に開かれた学校としての
活動を行う。
効果 子どもの学力向上の底上げ
を行う。
※文化向上・充実としての学校
図書館を活用する。
※学校・社会に向けた市民意
識を高める。



施設名 若葉公園・若葉緑地
機能 いろいろな事ができる公園
-危険性が少ない公園
-スポーツ・野球・サッカー等が
できる。緑豊かな子供と大人も
一緒に楽しめる公園。
活動メニュー 公園の中外には、バリアフリー
段差をなくして車イスが通れる。
お水が飲めるように、クリンピック
のボイスを設置してほしい。
効果 休みの日、家族で遊びたい、
これは子育て中のママが、お友達と
公園の中で防災用トイレや
煮込みができる場所
ほしい!

施設名 道路・通行
活動メニュー ①くるりんバス循環
②歩道の改修
③町内巡回(車)交渉
効果 ①東西路線の乗り換え便利
②車イスで出掛けやすくなる
③スーパー、会館等々になる

《こだわりポイント》

- ・子どもの学力向上
- ・高齢者の生きがいづくり
- ・文化・交流・学ばあう町
- ・民間委託しない

《実現するための決》

- ・学校図書館の開放
- ・施設人のアセスの確保(くるりんバス・立地)
- ・学校の放課後の空教室の活用

- ・佐藤
- ・友利
- ・星野
- ・あまの
- ・高木
- ・尾崎

D

Renovation
リノベーション/改装

→

Conversion
コンバージョン/用途変更再利用

旧若葉小学校+清掃工場
→
公共施設再編

UR団地再生計画 ● +

若葉町まちづくり・公共施設再編

団地と工場
に間に合う
再です。

若葉町まちづくり+UR団地再生計画 =

里山創造(職住一体)ライフスタイルの構築へ

みどり多き若葉町の20年後の未来に幸あれ

若葉町
町議会
全町民による
民主制にのっとった
公的財産のオーナー

文芸塾

・国際交流の場
・国立音大・武蔵美
との交流
・自治会図書館

温泉
ファーム

おせ79を誘致し、
温泉施設と果園の
経営をなす



石井大野
峰島田村
越智小河

4. 第8回ワークショップ アンケート結果

(すべてのアンケート結果を掲載・原文ママ)

【ワークショップ参加者】

■ポスターセッションについて

- ・みなさんからの質問がまた自分の学びになりとても充実した時間でした。
- ・各グループ「いいね！」と思えることが、ぐたいてきに沢山あった。みなさん熱い思いを語って下さっていて、印象的でした。
- ・他の班のアイデアが見れて楽しかったです。
- ・大まかな話がだんだん具体的になりました。
- ・各グループの思いや発想を聞かせてもらいとても楽しかったです。若葉町がもっとみりよくてきな町になると良いな！と思いました。
- ・ワークショップの集大成のポスターセッションは素晴らしいものができたと思う。
- ・わかりやすく集約してポスターを作るのはむずかしいですが、楽しかったです。
- ・どの班も良く考えぬいた（未来について）ポスターができ上っていたと思いました。
- ・他の班のセッションを見にいくタイミングがつかめずわかりにくい。一班ずつを全員で見る形式の方がよかったのではないかな。
- ・若い方々が参加してくれてよかったと思います。
- ・各グループの色々なアイデアがたくさんあり、楽しくなるようなポスターセッションでした。
- ・皆さんのいけんさんこうになりたのしかったです。年代によってもねがいがちがうので、はばひろい年代の集まりが良かったです。
- ・魅力的なIDEAをimpactある表現で表示に苦慮。
- ・これは思いがけなく良い取組をしていた。しばらく参加不可能。

■今までの若葉町まちづくりワークショップ全般について

- ・若い世代で話し合えたことが意見が出しやすく良かったです。
- ・ポスターセッションの内容が、1つでも多く実現してほしいです。
- ・長かったけど、最後まで楽しく参加させてもらいました。
- ・やっぱりプロの方が間に入るとすすめ方が合理的でいいですね。
- ・毎回、時間があっというまに過ぎ、有意義でした。
- ・地域の方々とのコミュニティー・意見交流の場として貴重な機会だったと思う。参加させて頂き感謝です！
- ・広い世代のアイデアが豊富で、ためになりました。
- ・F班でしたが、とても有意義な意見がでました。

- 本来の目的を達成しているとは思えない。公共施設の再編に関して議論していない。
- 町づくり構想の基本は、町民がその「構想」に関心を持つことだと思います。そのために（関心を持っていただくためには）は、全世帯に「町づくり」構想の意見（案）をきくことです。町づくり構想への協力もそこがものをいうと思います。ワークショップの案におわらずに町民（全世帯の）アンケートをとることを行ってほしいです。
- 熱心な意見交換が毎回行われていたので、是非、地域の声を市は生かして下さい。
- 皆の思いやアイデアがいかされるのか心配だったんですが、この出されたアイデアを今後にかしてもらえたらいいと思います。是非よろしくお願いします。
- 良い仲間と出会えて、これでおわりがさみしいです。方向性が決まったら同窓会したいです。

■その他、感想やご意見など

- 若い世代（10代～）や子育て世代が参加しやすい方法、時間をご検討下さい。
- 若葉町を考える、とてもよいきかいになりました。参加して良かったです。ありがとうございました。
- 今日出た意見やアイデアが少しでも実現してくれたら嬉しいです。
- 長い間、本当にありがとうございました！
- 若葉が芽生えると思います。
- 皆様が若葉町のこと、未来のことを思いながら生活されていると感じました。
- ファシリテーターが若葉町の公共施設について知らなさすぎ。下調べくらいしてほしい。
- これだけみんながしんけんに熱く語り合い知恵を出し合ったのですから立川市さんよろしくたのみます！！市民の願いを叶えて下さい。保育士さんいつもちこくですみませんでした。お世話になりました。
- 時間で区切ってらしたが、壁の時計が正確ならもっと良かった。これで終わりにせず市と市民が協働して行きたい。

【第8回ポスターセッション 一般観覧者】

■若葉町まちづくりワークショップ「ポスターセッション」はいかがでしたか？

- 各グループ、夢のあるものから現実的なものも含めて、自由な発想が見られました。それぞれのこだわりポイントも様々で、今後のまちづくりにどのように活かされていくのか楽しみです。
- 各グループの成果（アイデア・思い）がつまっていて発表をきいているだけでワクワクすることができました。こうしたコミュニケーションからまちがつくられていくんだと感じました。
- 各グループ共、知恵を出されて結果が上手く表現されていたと思います。
- 若葉町に対する熱い思いをひしひしと感じました。どのチームの皆さんも、学生をまきこんだ民間を取り入れてお金を生み出す。（自分たちの意見を取り入れてなので、委託にしないというグループもありました）という2つの視点を重要視していると感じました。
- 地域の課題が良くわかる形で有意義でした。地域の運営を担わせるなら、事業化・収益化がないと続ける事はムズカシイと感じる。
- みなさんの若葉町に対する夢が、各班意外と共通している部分がありおどろきました。コワーキングスペースやアトリエ、工房など用途的に行政のバックアップが必要なコンテンツが多いので、実現できるような下地づくりを期待しています。
- みなさんがつながりをもとめていると感じました。
- 地域の皆さんの自分達の手でまちを作ろうという気持ちが伝わってきました。
- ご参加された方々の若葉町への想いの強さを感じました。多世代のつながりをつくろうという提案が多く、都市の人々が人と人のつながりを大切にしていることがよく分かりました。
- 各Gとても良く考えられているなと感心しました。自主財源まで確保できるよう工夫されていて、驚くほどです。皆さんの想いがどのように形になっていくのか楽しみです。
- 各班の個性がみえて良かった。
- 色んな提案が見れておもしろかったです。思っていたよりも色んな世代の方がいましたが、もっと子育て世代も参加しやすいとより良いなと思いました。
- 各班のみなさんが主体的に関わって、ポスター制作や発表をされていることが素晴らしいと思いました。

■その他、感想やご意見など

- この成果がどのような跡地活用につながっていくのか、これからの市の取組に期待しています。

- こちらのアイデアを実現する為に、是非市のお力が必要になるかと思います。
- 立川市社会福祉協議会の、若葉町、栄町地区担当の地域福祉コーディネーターをしています。皆さんの地域に対する思いが知れてとても勉強になりました。立川市と立川社協で取り組んでいる「地域福祉アンテナショップ」も、皆さんとこうして考えて実現して行けると良いです。（自分ごととして関わっていける地域づくりのお手伝いをこれからもさせていただければと思います！
- 多世代、多文化、創出でき多様性を生む地方のモデルになれるプロジェクトだと思います。
- 班ごとにプレゼンテーションしてもらう時間があると尚良かったかと思います。
- 人と人のつながりは場だけでなく、仕組みが必要だと思います。多世代が協力することで、町がよりよくなる仕組みを取り入れると良いと思います。
- 保育ママさんか、キッズスペースがあるなどの告知があれば、子育て世代の一般参加がしやすかったかも。
- 初めに各班のプレゼンをしてから、分かれた方が良いと思う。（一気に各班を見れないし、途中から説明を聞いてもイマイチピンとこない）
- 立川市の担当の方々が今日のような色んな提案を受け入れてくれる事業者を選んでほしいなと思いました。
- 民間を活用しようとする考え、活用しないとする考えの両方があり、民間企業に属する者としては大変参考になりました。



【ご協力いただいた学識経験者の先生】

東京都立大学 都市環境学部建築学科
助教 讃岐 亮 先生

若葉町まちづくりワークショップ報告書

令和 4(2022)年 8 月 発行

発行 立川市

〒190-8666 東京都立川市泉町 1156-9

電話 042-523-2111(代表)

FAX 042-521-2653

編集 総合政策部行政経営課